

# 倫理委員会議事要旨

1. 日 時 平成25年12月9日(月) 15:15~16:55
2. 場 所 大会議室
3. 出席者 ○自然科学系委員  
(医学) 井原 副院長(委員長)  
谷本 臨床研究部長(副委員長・司会)  
竹内 統括診療部長  
(薬学) 山根 薬剤科長  
○人文・社会学系委員  
(一般) 植木 事務部長  
西垣 企画課長  
栗元 管理課長  
(法曹) 板野 委員  
(倫理) 太田 外部委員  
本保 外部委員  
福田 外部委員  
◇記録・・・ 小谷 庶務班長

## 4. 議事要旨 下記のとおり

### 配付資料

- ・倫理検討委員会・臨床研究等審査受付簿
- ・11月倫理委員会議事要旨
- ・研究倫理審査申請書(内容は以下のとおり。)

受付番号	職名	氏名	研究課題名
34	治験管理室長	田邊 康之	筋萎縮性側索硬化症患者(ALS)の延命治療中止希望の申し立てについて

(内B) 委員11名が出席していますので、本委員会は成立しております。

### 【議事要旨の確認について】

(内B) 本日の議事要旨の確認は、太田外部委員と竹内統括診療部長でよろしくお願ひします。

### 【11月の議事要旨確認について】

(内B) なにかご指摘がありましたらお願いします、如何でしょうか。

\*\*11月の議事要旨が承認された。\*\*

### 【研究倫理審査の申請について】

12月の倫理審査について

<受付番号34番>

(内B) 筋萎縮性側索硬化症患者(ALS)の延命治療中止希望の申し立てについてということで臨床倫理審査・助言申請書が提出されています。

\*\*受付番号34番について概略を説明\*\*

申請者の田邊医師から説明をしていただきたいと思います。

- (田邊) ー申請書に基づき概要説明ー  
詳細なことは看護師から報告をさせていただきたい。
- (看護師長) ー看護師長の立場から報告ー
- (看護師) ー担当看護師として報告ー
- (内A) ー倫理委員会委員長および副委員長が患者さんと事前に面談した内容を説明、患者さんがパソコンで書かれた文書を提示、終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン（厚生労働省）・南岡山医療センターにおける終末期医療のガイドライン・終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン2013年度版（日本緩和医療学会）を資料として添付ー
- (内B) ガイドラインでは主治医を中心とした多専門職種で構成する医療・ケアチームで判断することとなっているが、事前に検討は行われたのか。その見解はどうなのか、統一したコンセンサスは得られているということでのよいのか。
- (田邊) 基本的に患者さんのQOLを高めるということに関しては医療・ケアチームで異論はないと思います。点滴の中止とか医療に関しては個々の考え方があるので統一したコンセンサスは得ていない。がん患者に対する対応について委員の方々に経験されていれば意見を伺いたい。
- (内A) この申請書は助言申請ということでのよいか。
- (田邊) 助言ということをお願いします。
- (内D) 今の状態は終末期といってもいい状態なのか。
- (田邊) 終末期が近づいている状態である。
- (内C) 点滴は延命措置のひとつなのでそれをやめたいということが本人の意志であれば、基本線はそれで行っていいのではないかと。家族の方も賛同されているようだ。法的なことは別にして、倫理的な問題として意志がはっきりしている場合に点滴を継続していくのはどうかと思う。がんの末期の場合は先が見えている場合が多いので、しんどい状況の場合はあえて延命することをしない場合があるが最低限の点滴は確保している。
- (田邊) その辺がなかなか経験がないので、がんの患者さんはそうかもしれないけれど、神経難病の患者さんがどうかというところがある。
- (内A) 先日の患者さんとの面談では、患者さんは「今すぐに点滴を中止してほしいという訳ではない。いろんな選択肢がほしい。」ということであった。
- (内C) 現状が辛い場合は、点滴を中止してほしいということがあるが、もう一度聞いてみると点滴をお願いしますということもある、点滴を中止することに決めてしまう必要はないように思う。
- (田邊) 委員長に対してはそのようなことを言われたかもしれないが、担当看護師に対しては違うことを言われている。
- (内C) 人によって言うことが変わってくることもある。
- (看護師長) 食事に関して話をしたときも「未練がましい、点滴に関して今年中に終わらせたい」ということを言われた。
- (内C) 今年中に終わらせたいという理由は何があるのか、未練がましいというのは、がんの患者さんによっては弱みを見せたくないと思う人もいる。弱みを見せることは恥ずかしいことではないというふうにもってあげてあげべきだと思う。
- (看護師長) 経口摂取はしないとはっきり言われたこともある。
- (田邊) 点滴をやめたら主治医が困るだろうからと思われているのかもしれない。全部が本音かどうかはわからない。  
ご家族と知人の方が倫理委員会で話をしたいという希望がある。

- (外A) 延命治療として人工呼吸器を装着するかしないかという事案が過去にあった。今回は点滴の中止ということであるが可能なのか。  
南岡山医療センターにおける終末期医療ガイドラインには点滴中止にかかる記述はないと思うが。
- (外C) 点滴を中止したらどうなるのか。中止をしたために本人が苦しくなるのであれば中止すべきではない。苦しくないのであれば中止してもいいのではないか。苦しさからは解放してあげないといけない。
- (外B) 中止することはできないと思うので加減をしながら実施し、精神的に安心するような状態にしていくことがいいと思う。
- (内F) 未練がましいというのは自分への未練を断ち切ろうとしているのかもしれない。
- (看護師長) 言語的コミュニケーションが難しい状態である。患者さんが今の気持ちを訴えても言葉が断片的になるのでなかなか読み取ることができない。
- (外C) 意思確認の方法はどのようにしているのか。パソコンに入力して意思確認する方法もあると聞いたことがある。
- (看護師) 作業療法士とパソコンのトレーニングも行っている。
- (内A) 点滴の回数、量、時間を工夫したり、多職種で可能な限り患者さんとコミュニケーションをとっていくことが大切である。現段階では患者さんの苦痛がないようにしていくことが大切である。
- (外A) 人工呼吸器の装着について患者さんの意思確認はしてあるのか。
- (田邊) 早い段階で装着しないという意味を確認をしている。
- (内B) 今までの議論をまとめると、基本的には患者さんの意志を尊重し、できる限り苦痛を取ってあげる最善策を医療スタッフと患者さん、家族を含めて考えるということ。患者さんの状況に応じて流動的なので点滴を中止してほしいという状況になった時に再度委員会で検討するということになると思います。  
先日の患者さんの面談では、患者さんはいろんな選択肢がほしいと思われると感じた。
- (内D) 点滴を中止するにしても終末期なのかどうかによる、状態によっては積極的安楽死に繋がってしまうことも考えられる。
- (田邊) 仮に今、中止したいと言われて中止した場合に積極的安楽死に該当するのか。
- (内D) 現段階では判断できない。
- (内C) 現段階では患者さんとのコミュニケーションも取りにくくなっており、徐々に点滴の量、回数も減ってくるのではないかと思う。
- (内A) 患者さんのご家族と知人の方が倫理委員会に出席したいと希望されています。また患者さんもお家族と知人の方が委員会に出席することを希望されています。委員会の許可が得られれば出席いただこうと考えますが、如何でしょうか。
- (外C) 判例とかあるがケースバイケースなので判例は関係がないように思われる。将来の状況は確定している訳ではないので今いろいろ議論してもあまり意味がないのではないか。
- (外B) 患者さんの家族が話をしたいということでしたら、出席して頂ければいいと思います。

—出席された患者さんの家族、知人からご意見を伺った—

(内B) 現段階では点滴の中止はしない。本人の意思を尊重し、苦痛をできるだけ取っていくということを意識しながら対応していくということになる。

助言を求めるとのことなので結論という形は出ていないが方向性としては以上の内容になると思う。家族や知人の方も、点滴を中止し何も治療しないのではなく、本人の意向や気持ちを汲んで、苦痛をとる治療・対応をしていくことを望まれており、基本的には同じご意見なので委員の皆様よろしいでしょうか。

—承認された—

それでは、以上で倫理委員会を終了いたします。

その他

・ 次回の開催日時 → 1月20日(月) 15時～

上記の議事要旨に相違ないこと確認する。

外部委員署名〔太田浩司〕

内部委員署名〔谷川誠〕